

## 大阪大学放射線科学基盤機構発足記念行事

平成 30 年 8 月 1 日に千里ライフサイエンスセンターにおいて、放射線科学基盤機構発足記念行事を執り行いました。延べ 230 名もの放射線科学に係わる多くの方々にご列席いただき、大盛況のうちに終える事ができました。以下に、その時の様子をご紹介します。

記念式典： 10:30-12:00 (山村雄一記念ライフホール)



八木大阪大学理事副学長による式辞ならびに西尾大阪大学総長の祝辞（八木理事代読）を頂きました。また、ご来賓として文部科学省高等教育局国立大学法人支援から淵上課長（河野部長代読）、さらに大阪大学前総長の平野量子科学技術研究開発機構（量研機構）理事長、齊藤 J-PARC センター一長、中西原子力委員会委員が御挨拶下さいました。最後に機構長の篠原先生が本機構の概要を説明されました。



篠原機構長による概要説明

記念シンポジウム： 13:00-17:00 (山村雄一記念ライフホール)

記念シンポジウムではテーマ毎に三つのセッションに分けて、講演と討論が行われました。最初のセッションでは、量研機構理事長の平野先生に「がん死ゼロ健康長寿社会を目指して」と題した特別講演をお話し頂きました。次のセッションでは、放射線関連科学の最前線をテーマとして、放射線科学をリードする先生方にお話し頂きました。まず、大阪大学産業科学研究所の吉田先生による「産研における量子ビーム研究の展開」、そして理化学研究所の羽場先生による「理研における RI 製造応用~新元素の化学から核医学の診断・治療まで」、最後に阪大工学研究科の北田先生による「原子力人材育成プログラム」と、多様な放射線関連研究についてご講演頂き、活発な討論が行われました。最後のセッションでは、本機構の中心研究課題であるアルファ線核医学治療法開発の現状と展望について、4名の先生方にご講演頂きました。まず、招待講演としてアルファ線核医学治療のパイオニアであるハイデルベルグ大学の Giesel 先生に「PSMA-ligand theranostics: from imaging ( $^{68}\text{Ga}/^{18}\text{F}$ ) to therapy ( $^{177}\text{Lu}/^{225}\text{Ac}$ ) and its clinical impact」というタイトルでお話し頂きました。次に、この分野の世界的動向について、大阪大学医学系研究科の畑澤先生に「国際原子力機関 IAEA とアルファ線核医学治療」と題してご紹介いただきました。さらに、国内の現状と展望について、量研機構放射線医学研究所の東先生に「アルファ線核医学治療 国内の現状と展望」、大阪大学理学研究科の深瀬先生に「アルファ線核医学治療開発に向けた大阪大学の戦略と現状」のタイトルでご講演頂きました。アルファ線核医学治療法開発に関する、国内外そして阪大での状況が非常にわかりやすく説明されたセッションでした。



平野先生による特別講演



Giesel 先生による招待講演

記念祝賀会： 17:30-19:00 （千里ルーム）

柴田徳思先生の乾杯の音頭で始まり、延べ 140 名以上の方がご参加下さった非常に盛況な祝賀会となりました。



記念行事参加者：延べ230名

内訳：式典：156、シンポジウム：204、祝賀会：122（+8事務）

内訳：大学研究機関（学内：132、学外：41）、企業等：53、その他：4

放射線科学基盤機構記念行事は、本学執行部や機構のメンバーに加え、放射線科学に係わる多くの方々のご列席下さり、大盛況のうちに無事終える事ができました。本記念行事を通じて、関係者各位からの放射線科学基盤機構への大きな期待を感じ、機構の責任を実感できました。機構といたしましては、皆様のご協力の下に未来に向かって歩んでいきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。